

医療コラム 国保でわかる！健康安心！ 埋蔵金があなたの家にも！お薬の話

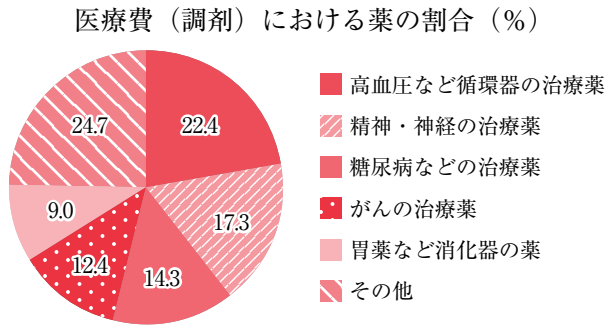
獨協医科大学 准教授 種市 ひろみ

実家に埋蔵金が

私事で恐縮ですが、先日、久しぶりに実家に行ってきた。両親とも寄る年波で、たくさんのお薬を飲んでいきます。飲み忘れないように、小さなマス目になっている薬箱に朝昼晩と必要な分だけ入れてありました。ところがなぜか、戸棚から次々と出てくるお薬袋。もちろん、病気のことも気になります。が、「これって、全部でいくらなの？」と医療費の計算をしてしまいました。このような飲み残しのお薬を、こっそり隠されている「埋蔵金」と揶揄する人もいます。

医療費への影響

厚生労働省もついに、増大する薬剤の医療費対策に本腰を入れ始めました。厚生労働省の調査によると、飲み残しのお薬に関する様々な研究から、薬剤師さんの指導などがあれば、100億から6500億円の医療費を削減できるという調査結果が出ています。目の回るよ



厚生労働省：最近の調剤の動向（平成28年12月分）

どの場合、お薬をいただくときに胃薬もいただいているので、自然と胃薬はたくさんの方に処方されます。そして、がんの方にとって治療薬はとても大切です。

なぜお薬は残ってしまうのか

では、必要だから処方されたお薬が、どうしてこんなに残っているのか、不思議です。「忘れてしまうのよ」と母は言いました。高齢だから、仕方がないのかもしれない。しかし、1日2食の高齢者に食後3回分のお薬が処方されていたり、漢方薬が苦手、粉薬にむせてしまう、錠剤が大きすぎて飲み込めないなどの理由から、お薬が飲めていなかったりということが現実にかつたりということが現実にかつています。また、認知症の方の場合は、お薬をきちんと飲むように声かけと確認が必要になります。その方にあった方法で、どうしたらきちんと飲むことができるのかを考えると、大切なことがあります。

下野市の恵まれた環境

表のように、下野市の受診率は栃木県内25市町の中で5位。単純に考えると、約9割の方が何らかの理由で病院を受診していることになります。

栃木県内の市町別受診率

順位	市町名	受診率（%）
1	壬生町	94.6
2	茂木町	92.5
3	宇都宮市	89.6
4	高根沢町	88.5
5	下野市	88.3

栃木県国保連合会：平成28年6月審査分より

高齢者ではさらにこの割合が増加することが示されました。薬剤数の増加に伴い、有害な作用が起る可能性もあります。70歳以上の9.8%に重複投与があるとされる催眠鎮静剤、抗不安薬については、重複投与による認知症の悪化なども指摘されています。

東京並みに病院がたくさんある下野市は病院に行くことが比較的容易な環境であるといえます。また、一人あたりの病院ごとの医療費を比較すると、25市町の中で23位という結果でした。早めに受診して、重症化することなく、治療にお金と時間がかかる方が少ないのかもしれない。しかし、病院にかかれれば、その分様々なお薬が処方されます。

ポリファーマシーって？

「ポリファーマシー」という言葉は聞いたことがありませんか？高年齢が進む中で、複数の病気を合併し、多剤服用（ポリファーマシー）する方が増加しています。厚生労働省の調査によると、65歳以上では10剤以上服用している方が10%以上、75歳を超えた後期

高齢者ではさらにこの割合が増加することが示されました。薬剤数の増加に伴い、有害な作用が起る可能性もあります。70歳以上の9.8%に重複投与があるとされる催眠鎮静剤、抗不安薬については、重複投与による認知症の悪化なども指摘されています。不要なお薬を減らすためには、ひとりの方をトータルで診るかかりつけ医やかかりつけ薬剤師の担う役割が重要ですが、同時に皆さんに意識を変えていただく必要があります。例えば、福岡市は「節薬バッグ運動」を実施しています。家にある残薬をバッグに入れて薬局に持っていき、お薬の調整をしていただくことによって、いぶん効果があったようです。もったいない、後ろめたいと思いつつお薬を捨てるより、まず、効果的にお薬と付き合う方法を考えてみませんか。

参考文献

益山光一…医療保険財政への残薬の影響とその解消方策に関する研究 平成27年11月
厚生労働省…第1回高齢者医療品適正使用検討会 平成29年4月17日